町の移り変わり
経年変化を銅板屋根で表現
「はっとまちだ」

JR町田駅から街の中心に続く原町田大通りを歩くと、帽子のような外観と銅板屋根が特徴の建築物が目に入る。この愛らしい建物は株式会社町田まちづくり公社が運営する「町田駅前交流拠点　はっとまちだ」で、街のシンボルとしての役割を期待し、同社が2025年春に開業した。インフォメーションや商品販売、休憩スペースなどの機能があり、早くも訪れる人々と街の魅力をつなぐ新たなランドマークとなりつつある。

出会いや交流を育む、街の新しい拠りどころ「はっとまちだ」。その最大の特徴は、カーブを描く銅板屋根と、帽子を思わせる愛らしいフォルムだ。そこには、設計などを手掛けた株式会社日建設計、佐野勇太さんのさまざまな想いが詰まっている。

左右非対称の屋根のデザインに関して、設計者の佐野さんは「町田駅に降り立った人々が『あれは何だろう?』と目に留まるようにしたかった。駅の歩行者デッキからも見えるようにするには、屋根の頂点を道路側に寄せる必要があったので、必然的にアシンメトリーになった」と説明する。

また屋根の素材に銅板を用いた意図については、「〝移り変わる人や街〟といった、はっとまちだのコンセプトにぴったりの素材がまさに銅でした。銅は時間の経過とともに、色合いや風合いが変化するもの。こうした経年変化の特性を活かすことで、〝移り変わり〟の概念や、街づくりに込める姿勢を体現しました」と振り返る。

はっとまちだを運営・管理する、株式会社町田まちづくり公社の鈴木不二人さんは「街に暮らす人、訪れる人、すべての人がふと立ち寄りたくなる〝拠点〟として、これからも愛される場所に育てていきたい。はっとまちだが、町田の顔として、街の魅力を伝え続ける存在になればと願っています」などと想いを語った。

建物内、屋根の裏側には、約3,000枚の扇形木材がらせん状に貼られ、滑らかな曲線を生み出している。

「はっとまちだ」という名前には、“はっと”するような発見や出会いがある場所にしたいとの想いに加え、帽子（ハット）のような建物の形にちなんだ意味が込められている。

建物裏手の広場「spot」には、常緑の観葉植物や、温かみのある色合いのシンプルな木製ベンチが配置されている。時には、お店やイベントが催される。

右／株式会社町田まちづくり公社　事業部中心市街地活性化推進課長　鈴木不二人さん
左／株式会社日建設計　企画開発部門　コモンズグループ　佐野勇太さん